

フィンランド中世カトリック教会 断簡コレクションのデジタル公開

平井 孝典

はじめに

フィンランド中世カトリック教会断簡コレクション¹は、2012年にフィンランド国立図書館の専用サイトでデジタル公開され閲覧が容易になった資料群である。断簡は11世紀から16世紀にカトリック教会の修道院や教会に配置された刊行物であった²。解体され、16世紀から約100年にわたり税務文書簿冊のバインディングに流用された。表紙は劣化後に順次、取り替えられ廃棄されるはずであった。ところが、19世紀にフィンランドの大学図書館アーキビスト・グロンブロード (Edvard Grönblad, 1814-1864) が表紙の価値を認めたことから多量のカトリック教会旧蔵資料コレクションが今日まで残されることになる。

本稿は、中世カトリック教会断簡コレクションに関わる過去における重要な実務作業を扱うものとなる。最初に「1. 中世カトリック教会断簡コレクション」では、このコレクションの背景について概説をする。次に「2. ヘルシンキ大学図書館アーキビスト・グロンブロードによる価値の確認と保存作業」では、19世紀フィンランドの大学図書館アーキビスト・グロンブロードらの作業に触れる。このコレクション及びスウェーデンでの同様のコレクションが保存され、結果的に今日、デジタル公開された背景には19世紀の作業がある。「3. スウェーデンとフィンランドでのデジタル公開」として、中世カトリック教会断簡コレクションの両国におけるデジタル公開の概略を説明する。ストックホルムではアーカイブズにより目録作

1 Fragmenta membranea -kokoelma <<http://fragmenta.kansalliskirjasto.fi/>> (引用日:2016-10-31)

2 Abukhanfusa [2004a].

聖書⁵、典礼関係のマニュアル、カノン、ミサで用いられる楽譜などが記載された大型本 (codex) であった。ラテン語 (数字は稀にアラビア数字) が多い。一部は、古英語、中世のスウェーデン語などによる記述もある。例えば、聖ジークフリートについて15世紀頃に記されたスウェーデン語の説明もある⁶。修道院などでも多数所蔵された。断簡には法律関係等も一部含まれる。教会修道院以外で所蔵されていたものもある。

16世紀、グスタフ・ヴァーサ王がルター派を事実上の国教として選びカトリック教会を弾圧した。結果としてこの刊行物は人々の視界や記憶から消える。完全に消滅したのではなく、鞣皮紙は貴重とされ、ストックホルムの役所やアーカイブズなどで1530年頃から1630年頃に再利用される。地方の出先機関から行政文書 (税務文書) が運ばれるときに断簡紙片は二つ折りにされ税務文書を保護するために使用された。最終的には、税務文書簿冊の表紙バインダーに用いられた。

1809年にフィンランドがロシア領の大公国となった時、フレデリクスハムン講和条約により行政文書を分け、フィンランド関係分については新宗主国ロシアではなくフィンランド内で管理されることになる⁷。選別された公文書私文書は1810年から12年に3回に分けてストックホルムからオーボ (トゥルク) へ移送された。1816年にはセナーッティ公文書館⁸ が成立、1819年にオーボから新首都ヘルシンキへ保管場所が移された⁹。1840年代、ヘルシンキ大学図書館アーキピスト・グロンブロードが、表紙は中世の教会関係を主とする断簡であることを発見し、フィンランド所蔵分表紙

6 スウェーデン断簡 Fr25816. Abukhanfusa [2004b] p.18.

7 概略については、Kerkkonen [1995]。Kerkkonen [1988]。平井 [2013]。

8 セナーッティは行政担当と司法担当からなり、一部の立法機能も持つ政府組織。フィンランド人で構成。セナーッティ公文書館 (Senaatinarkisto) は事実上、最初の中央政府レベルの公文書館。セナーッティという表記方法は、百瀬宏が『北欧現代史』(山川出版社、1980年) などで用いてきた。

9 セナーッティ公文書館所蔵資料が1819年に移送されたことは重要な意味がある。1827年のオーボ大火でフィンランドは多くの中世資料を失っている。行政文書とその表紙はヘルシンキで残存することができた。

table 2

中世カトリック教会断簡コレクションの経緯

参照：Kerkkonen [1995], Abukhanfusa [2004a], Abukhanfusa [2004b], Brunius [2013]

	＜スウェーデン＞	＜フィンランド＞
830-850 頃	「北方の使徒」聖アンスガー (Saint Ansgar, 801–865) の宣教師がウェストファリア (現在のドイツ) からメーラレン (Mälaren) 湖畔の町ビルカ (Birka) 訪問。キリスト教のグループを形成する。このグループはだいに縮小、消滅。布教活動については、860-870 年代にアンスガーの友人で ärkebiskop av Hamburg-Bremen 後任の Rimbart が Vita Ansgar という書物に残す。その他、スウェーデン及びその周辺の初期のキリスト教については、ハンブルク・ブレーメンの管区であったことから、ドイツに複数の記録が残されている。Brunius [2013] 13p, Abukhanfusa [2004b] 16p.	
1000 頃	「第二の北方の使徒」聖ジークフリート (Sigfried, -1045) がイングランドよりスモーランド地方の古都ベクショール (Vaxjö) へ。1008 年に王 Olof Skotkonung に洗礼 (とはいえ、王はゲルマン神の司祭を兼任)。聖ジークフリートのことは例えば 16 世紀にもなお讃えられている (Fr25816)。Abukhanfusa [2004b] 18p	
11-15 世紀	聖書などキリスト教の鞆皮紙の書物が欧州各地から修道院、各教会へ。現存の断簡は 13 世紀が多い。最後期には印刷物も含まれる。	
1527	事実上、ルター派が国教に (Reformationen i Sverige)。修道院が縮小閉鎖へ。	
1530-1630	地方の税務会計書類が現用期間満了後に聖書などの鞆皮紙・書物とともにストックホルムへ。書物自体は解体され各ページ鞆皮紙はバインダーとして利用。国立公文書館や議会のアーカイブズで綴られる。地方行政の仕組みの改変でこの再利用は 1630 頃に停止。再利用されたページもある。結果として欧州最大規模の中世カトリック書物コレクションが断簡として残されることになる。	
1802, 1807	同年 2 回の大火で、Kammararkivet (アーカイブズのひとつ、1922 年に国立公文書館と統合) の資料を大量に焼失。1620 年代所蔵分に比し、三分の一以上の税務文書簿冊が失われた、と考えられている。Brunius [2013] 36p.	
1808-1809	フィンランド戦争。フレデリクスハム講和条約で東部地域とロシア西部の一部がフィンランド大公国としてロシア自治領に。フィンランドでは以後も、「出版の自由法」(Tryckfrihetsförordning 1766) が基本法継承。またスウェーデン語が公文書、学術論文などの基本言語である状況は継続。	
1810-1812	条約によりフィンランド関係の公文書及び私文書をフィンランド人の事務官と軍人が選別。オーボ (トゥルク) に移管、3 回に分けて移送される。1530-1630 頃作成取得の文書も含まれる。	
	＜スウェーデン＞	＜フィンランド＞
1816		セナツティイ公文書館成立。(のち 1869 に国家公文書館、1939 に国立公文書館と改称)。
1819		オーボの移管資料をヘルシンキに移送。
1827		オーボ大火。帝国大学などが所蔵する中世資料が多数消滅・毀損。翌年、大学はヘルシンキに移転。毀損資料の補修は現在も継続中。
1843		大学図書館アーキビスト・グロンブロードが行政文書の表紙が断簡であることを確認。
1853	(スウェーデン側もフィンランドの動きを注視)	ボマンソンがグロンブロードの助手になり本格的な整理保存及び目録作成業務。ただし税務文書が主たる業務である。表紙は大学図書館 (国立図書館) 所蔵、内容はアーカイブズが所蔵。
1860	以降に一部の断簡が複数回に分け王立図書館へ。	
1863		フィンランド語も「公用語」としての使用が認められる。大学ではフィンランド語学位論文の受理が拒否される一方、ボマンソンのように基本的にはフィンランド語を使用しない研究者・実務者へのアカデミズムでの排他的な動きも。
1869		一部の断簡がロシアへ (現在も所蔵)。
1879-1882	一部の断簡が軍事アーカイブズへ。1890、1903 に、多くはウップサラ大学図書館、少数は王立図書館へ再移管。	
1893	一部の断簡が宮廷アーカイブズへ。	
1910		ハーパネンが目録作成開始。
1912	Isak Collijn (ルンド大学ウプサラ大学図書館員歴任、王立図書館館長 1916-1940) が政府の依頼により断簡の調査開始。1927 に政府は目録作成を決定。	
1917		レーニンが独立承認。
1922		ハーパネンが最初の目録 (ドイツ語) 刊行。フィンランドでは現在も使われている。
1930-1985	CCM プロジェクト、ルンド大学で聖ジークフリートを研究する Toni Schmid が担当。Schmid 自身は 1968 引退。	
1995-2004	MPO プロジェクト。NAD 内の一資料群として中世断簡をデジタル公開。	
2006-2012		国立図書館による中世断簡コレクションのデジタル化公開作業 (代表: Dr Tuomas Heikkilä)。国立図書館ネットワーク内に専用独立サイト設定。
2010	ストックホルムを除く地方の主要アーカイブズが国立公文書館と一体的運営に	

の内容や価値を明らかにし「復原」していく。その後、1910年代に若手の教会音楽学者ハーパネンがドイツ語の目録を作成する。この目録はデジタル公開でもスキャニング画像がそのまま使われている。対照的にスウェーデンでは、フィンランドに遅れること70年、隣国の作業進展の影響を受け、1912年頃から調査が始まる。断簡の時間的な経緯は<table 2>である。

2. ヘルシンキ大学図書館アーキビスト・グロンブロードによる価値の 確認と保存作業

グロンブロードはウップサラ大学でスウェーデン東部地域（フィンランド）研究により学位¹⁰を授与された職業アーキビスト¹¹である。大学図書館アーキビストではあるがセナーッティ公文書館からも業務を委託され一定の時間はセナーッティ公文書館に出向した。セナーッティ公文書館でアーカイブズの知識を持つ初めての、一年を超える長期雇用職員である¹²。

2.1 グロンブロードによる作業成立の状況

1843年にグロンブロードは、大学図書館のスウェーデン王室関係資料・会計帳簿などの簿冊（ファイル、pärmar）の表紙部分に注意を向けた¹³。表紙部分は、上質の鞣皮紙であるだけでなく、音符やラテン語の文字が断片的に見える。セナーッティ公文書館所蔵分（こちらが主要部分）の行政文書（税務文書）も調査した（同年グロンブロードに委託）。表紙はカトリック教会旧蔵図書の一部で、本としては完全に解体された上で各ページが簿冊の表紙に流用されたことが判明、大学図書館員ピピング（Fredrik Wilhelm Pipping, 1783-1868）に伝えた¹⁴。ピピングは1844年にフィンラ

10 学位の対象となったのは、Bidrag till Österbottens historia, 1839。

11 「Grönbladは学業を終えフィンランドに戻った後、ヘルシンキ大学図書館の補助専任助手（extra ordinarie amanuens）のポストを得、1840年には評議会付助手（konsistorieamanuens）のポストを得た。1844年には専任講師（docent）及び図書館の専任助手（ordinarie amanuens）となった。」Kerkkonen [1995] p.30, p.39。

12 平井 [2014]。

13 概略説明は主に Kerkkonen [1995] p.39-61を参照。

14 状況の概略を報告した、ピピングあてグロンブロードの手紙は、3通は残されている。Edvard Grönblad, Brev till F. W. Pipping, 29 och 30. 9. 1841. Edvard Grönblad, Brev till F. W. Pipping, 17. 8. 1842. Edvard Grönblad, Brev till F. W. Pipping, 19. 9. 1846.

ンド人文・社会科学協会¹⁵で説明をした。グロンブロード上級講師が税務文書簿冊の表紙は *Mannuale Aboense* の一部であることを確認したこと、解体される前の大型本はこれまでスウェーデンやフィンランドで知られていなかったこと、などである。ピピングもグロンブロードも新聞などで執筆し、あるいは報道され、世論が形成される¹⁶。政府は、表紙の通し番号付与などを条件としつつ、その作業を財政的に援助した¹⁷。

グロンブロードの業務において、予算関係や人事で公式非公式に助力した人物として、ピピングに言及されるが、歴史学の教授で大学の要職を歴任していたレイン (Gabriel Rein, 1800-1867) もあげる必要がある。グロンブロードは、当初、ピピングに業務の報告をしたが、中途からは主にレインに説明した。ピピングあての手紙3通¹⁸には、刊行物¹⁹にも述べたよ

15 Suomen Tiedeseura <<http://www.scientiarum.fi/>> (引用日:2014-05-27)。Finska Vetenskaps-Societeten (Suomen Tiedeseura) は1838年設立のスウェーデン語リテラシーの団体。同様のフィンランド語リテラシーの団体である Suomalainen Tiedekatemia は後1908年設立。

16 当時の新聞 *Finlands Allmänna Tidning*, no 103, 04.05.1844, 及び no 104, 06.05.1844の各第一面にピピング (Fredrik Wilhelm Pipping) が *Mannuale Aboense* 断簡などを Finska Vetenskaps-Societeten で報告した内容が詳しく掲載されている。DIGI-Kansalliskirjaston digitoidut aineistot <<http://digi.kansalliskirjasto.fi/>> で閲覧した (引用日:2016-08-24)

17 Kerkkonen [1995] p.42. 政府の援助が得られることからわかるように、グロンブロードらの初期のアーカイブズ業務は、ナショナリズムとの関係は希薄である。ナショナリズムと直接結びつくものと考えられれば、予算が支出されないだけでなく、業務遂行自体が困難となる。初期の業務の目的は、フィンランドやフィンランド人を明らかにするための資料の収集・保存及び提供の工夫である。この段階でフィンランドの輪郭を明らかにする業務はスウェーデンからの分離や大公国成立の正当化を補うとも為政者には考えられうる。

18 前掲14。

19 Grönblad [1847]。1843年8月以降の初期の調査が叙述されている。論文後半で刊行物名 (ラテン語で表記) やそれらの種類を多数指摘するとともに、論文前半で総称として *fragmenter* としている。Grönblad は一貫して簿冊に付随し残された資料群、と中世の刊行物を認識していたためと考えられる。現代のアーカイブズ実務ではごく自然な発想である。実際、後述するスウェーデンでは今日、そのような考え方で整理公開がなされている。

うな、業務対象の概要が述べられている。つまりどのようなカトリック刊行物がありそうなのか、刊行物名などに言及している。レインにあてた手紙では、個別内容に加え、年度ごと時系列でどのような作業を進めてきたか、詳しく叙述した²⁰。どの年にどの表紙を扱い、どの刊行物の一部であるのか考察し、さらには、どのように復原しうするのか、などである。作業の記録化を試み、将来におけるアーカイブズ業務にも配慮しようとした姿勢がレインへの手紙にも反映している。単純に分離するようなことをすれば、資料そのもののアーカイブズ学研究をすることが将来において不可能となる。

1853年の手紙²¹では、「断簡資料56例の税務文書簿冊・・・」と始まる箇所、1847年から1853年12月までの、計56の作業例が紹介されている。表紙と税務文書が、それぞれオーボなど、どの地域に由来するか報告している。年別に多いのは1848年の13例と1853年の21例である。

ケルッコネンは、グロンブロードの送付した手紙には触れていない。しかし、グロンブロードは、アーカイブズの考えが十分に形成されていない時代の中で確固とした努力をした、と述べている²²。おそらく、丁寧な整理作業や整理作業の記録化が理解されるのは19世紀には困難であった。アーキビストといった職業集団が確立していない社会で、かつ歴史学研究といった利用の視点が主に重視される社会では、整理作業そのものの工夫や記録化が優先されるのは難しい。

ところで、カトリック教会に由来する中世の断簡は、現在から見ると、すでに遅くとも1830年代からストックホルムやコペンハーゲンで市中に流出した断簡により知られ始めていた²³。グロンブロードがこの噂を認識し

20 Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 1. 12. 1853. ほか国立図書館には9通。日付が同じ手紙もある。

21 Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 1. 12. 1853. スtockホルムから送付。

22 Kerkkonen [1995] p.56-58.

23 Brunius [2013] p.35.

ていたのかどうかは不明である。1841年に友人あてに出した手紙では、ヘルシンキ大学図書館に勤務することになったとだけ記している²⁴。

2.2 グロンブロードらの作業

グロンブロードの作業ノート²⁵には、どの表紙にどの断簡がバインダーとして使用されていたか、さらにはどのような刊行物の一部と考えられるか、詳細に記述されている。勤務先の図書館で保存されてきた作業ノート全体の中で、Manual Aboence に関わる記述がより多く残されている。表紙のラテン語やデザインをすべて書写する作業も多量にしている。書写した明確な理由は今のところ不明である。ひとつ考えられるのは、外国にコピーを持ち運び、比較することで、その表紙の記述がどのような本の一部を成していたのか明らかにしようとした可能性はある。

1853年6月1日には、グロンブロードの助手としてボマンソン (Karl August Bomansson, 1827-1906、後年に国家公文書館館長) 及びワサエルナ (Oakar Wasatjerna、家系図研究家) がこの仕事を実施するために採用された²⁶。最初に、グロンブロードは仕事の方向性を示す。これまでの一人の作業で、①目次の記述のある表紙は注意深く分離した。②税務文書簿冊のすべては正確な順番にて番号を付した上で、簿冊から表紙は分離した。③引きはがされたカバーから、番号の単位ではなく、資料に基づき統合し、新たな番号で整理した。④税務文書を再綴するにはセナーッティのバインダーが使用された。以上は、グロンブロードが自ら行い方法として確定したことである。ボマンソンらが参加する前に、慎重に作業を試みた。表紙と内容部分との関係が復原できるよう番号をつけるなど、「科学的な」アーカイブズ、資料保存を想定した作業を続けていた²⁷。

24 Edvard Grönblad, Brev till G.O. Wasenius, 1. 1. 1841, s13.

25 Upplysninger om Missale Aboence och andra liturgiska skrifter.

26 Kerkkonen [1995] p.54.

27 Kerkkonen [1995] p.56-58.

6000以上の税務文書簿冊のうち、最初の10年で56冊の調査である。グロンブロード自身が終えることはできず、ボマンソン及びハウゼン（Reinhold Theodor Hausen, 1850-1942, ボマンソン後継の国家公文書館館長）らが継承する²⁸。

グロンブロードらによる作業は、結果として20世紀にはハーパネンらの業務に影響を与えた²⁹。ハーパネンは目録作成及び復原の試行のみならず、オーランド地方などをサンプルとし、「断簡ファイル携行説」を唱えるなど断簡そのもののアーカイブズ学研究に大きく貢献した³⁰。ハーパネンら後の実務者・研究者が断簡そのものについてアーカイブズ学研究を進められたのは、解体前の状況がある程度、把握可能だからである³¹。

断簡ファイル携行説は、カトリック教会旧蔵資料の解体利用が、中央政府の税務担当部署（Kammarkollegiet³²）の役人に渡される前の段階で実

28 Brunius [2013] らは、グロンブロード後のフィンランド国家公文書館内の動きには言及していない。フィンランド国立公文書館所蔵ハウゼン資料群の中には、ボマンソンからの手紙が86通も含まれる（最晩年は代筆）。中世資料に関わるボマンソンの意見もある。Karl August Bomansson, Brev till Reinhold Theodor Hausen.

29 彼の復原作業は Tovio Haapasen muistsiinpanoja で断片的に見ることができ。目録はドイツ語であるが、作業自体のメモに使われた言語は基本的にはスウェーデン語である。なお、タイトーの作業メモも残され保存されている。

30 Haapanen [1922]の解説。後に、タイトーがヴィボルク地域の税務会計文書について図解し説明、この説を補強した（portfolio theory, folio portare, portfolio）。Taitto [2002] の 221-226頁。なお、目録作成及び資料の考察について付言すると、ハーパネンの他に、例えば1970年代にはレイテネン（Anja Inkeri Lehtinen）が教会法関係の断簡の目録作成を試みている。1980年代にクヌーティラ（Jyrki Knuutila）が試行している。ハーパネンの時代にもマリニエム（Aarno Maliniem）が教会暦に関心を寄せていたようだが、マリニエムの場合はアーカイブズや図書館の作業というよりも研究と考えられる。Lehtinen [2005]によれば、研究者のレベルでは1860年代に、例えば E.J.W. Brunér や S.E.Elmgren らが論文で言及している。

31 Taitto [2002] p. 221.

32 スウェーデンで古くからある役所。内務省や大蔵省などを併せ持つような役所である。

施されたと考えるものである。各簿冊において、表紙旧蔵の教会旧所在地域と税務文書簿冊対象地域とが一致しないなど流用された状況は複雑である。ハーパネンの指摘をふまえ、タイトーが検討している。これは、①現場の税務担当者が税務文書を守るために、紙や鞆皮紙を二つ折り³³にして税務文書を挟む。鞆皮紙などを携行ファイルのように使用し、それを役所に持参したという習慣が存在したとまずは考えられる。②中世カトリック教会に由来する断簡も、このようなファイルとして最初は用いられ、次に表紙として流用されたと考えるものである³⁴。

3. スウェーデンとフィンランドでのデジタル公開

フィンランド国立図書館でのデジタル公開に先立ち、同様のコレクションがスウェーデン国立公文書館サイトで公開された³⁵。同館はワークショップを重ねて開催し、また資料を利用するためのガイドを英語で刊行した³⁶。その作業は、フィンランドのデジタル公開にも影響を与えている³⁷。

スウェーデンでのデジタル公開を積極的に取り上げる理由を二つ述べておきたい。一つは、後述するように、断簡を中世リテラシー研究を進展させるものと捉えることができる。その場合、スウェーデン及びフィンランドの中世は、一つの国・社会を形成しており、スウェーデン側資料も連続的に考えられる必要がある。二つ目に、スウェーデンのデジタル公開はその作業が先行しているのみならず、研究を進める上で参考となる情報が多く、かつ付加されていく可能性がある。メタデータの情報量が多く、資料

33 二つ折りの状態についてはグロンブロードも認識していたようである。Kerkkonen [1995] p.42. Grönblad [1847].

34 Taitto [2002] p. 221-226. スウェーデン側のブルニウスも大筋は支持している。Brunius [2013] p.28.

35 Riksarkivets databas över medeltida pergamentomslag <<http://sok.riksarkivet.se/mpo>> (引用日:2014-10-24)

36 Brunius [2013].

37 後掲 <table 8> dc.description の記述に見られるように、フィンランドの作業ではスウェーデン側断簡との比較が積極的に行われている。

の把握やアクセスもしやすく作成されている。

3.1 スウェーデンでのデジタル公開

スウェーデンでの断簡デジタル公開は、国立公文書館の一資料群として実施されている。

3.2 CCM プロジェクト

スウェーデンではこの断簡コレクションについて、1860年代に、王立図書館長クレミング (Gustaf Klemming) が関心を持っていたことは知られている³⁸。後に、コリン (Isak Collijn) が1912年に政府から断簡調査を命じられ、1914年に報告した。1927年には政府により目録作成が決定される。その頃、聖ジークフリート研究を学位テーマとし断簡に関心を強く持っていたのが、歴史学研究者シュミット (Toni Schmid³⁹) であった。以降、彼女は1968年の引退まで継続的にこの調査研究をしていく。ようやく表紙の断簡を対象とした、本格的な整理作業が始まる。シュミットの後継は、1958年にFL (助手) に就任したオデニウス (Oloph Odenius) であった。彼は亡くなる直前の1985年まで業務を継続した。二人によるプロジェクトはCCM (Catatogus Codicum Mutilorum) と呼ばれている。11000を超える断簡のカード目録化を目指したが、CCM 目録は完成することにはなかった。活発な研究活動、論文や研究書の刊行により、詳細な部分研究は進み、スウェーデン (とフィンランド) の断簡が特にドイツ語圏で

38 Brunius [2013] p.41. ウップサラ大学図書館への移管分について一定の成果も残している。Abukhanfusa [2004b] p.105.

39 オーストリア出身、ルンド大学で聖ジークフリートをテーマに研究。1929年9月に短期間、国立公文書館で仕事をした後、1930年に目録作成開始。人物については、スウェーデン国立公文書館作成サイト (Specialsök の Externa länkar にある) Svenskt biografiskt lexikon (SBL) <<http://sok.riksarkivet.se/SBL/Start.aspx>> が詳しい。国立公文書館にその人物の資料があればこの電子人物辞典内でも人物と関係資料とがリンクされる。

注目されることにはなった。

彼らの業務の目的は、カード作成のみならず、断簡の復原そのものも想定する壮大なプロジェクトであった⁴⁰。シュミットは1945年に Vallentuna Missal を編集刊行し⁴¹、さらに1959年から65年にかけて Graduale Arosiense を分冊で刊行した⁴²。彼らの方法⁴³は、断簡ごとにカードを作る。さらには復原した状況を表す CCM カードを作成していく。CCM カードが元の大型本の書誌情報を示すことになる。この書誌に、歴史学の成果などを踏まえ、由来など可能な限りの情報を付加していくという大変な作業である。

3.3 MPO プロジェクト

研究者主導による1930年から1985年までの過去の作業を「終わることがない」と反省し⁴⁴、スウェーデン所蔵断簡の公開が、多くの利用者を優先する方向に転換される。現在の言い方であればつまり、画像公開の優先である。スウェーデン国立公文書館アーキビスト、ブルニウス（Jan Brunius）らのプロジェクトは単純に MPO（Medeltida Pergament Omslag [中世の鞆皮紙表紙]）と名付けられている。ブルニウスは1990年頃に担当となり、正式なプロジェクトとしては1995年にスタートした。部分的には多数の国内外研究者の協力を得ながら2003年に概要を公表した。対象数は<table 3>である。このプロジェクトへは Kungl. Vitterhetsakademien [王立人文学院]が援助している⁴⁵。

プロジェクトでのデータベースの用語設定や作業のプランニング⁴⁶は、

40 Brunius [2013] p.42.

41 Schmid [1945]. 解説はスウェーデン語である。

42 Schmid [1959-1965].

43 Brunius [2013] p.43.

44 Brunius [2013] p.9.

45 Abukhanfusa [2004b] p.105.

46 Brunius [2013] p.44, p.153.

table 3

MPO プロジェクト合計断簡数と旧蔵数 (2010 年までに右記アーカイブズ含む多くのアーカイブズが国立公文書館に順次統合, Brunius [2013] p.34)	(現在, 国立公文書館と完全に同一組織)	(合計) 22,909
	Kammarakivet (KA) [役所 Kammarkollegiet などから移管されるアーカイブズ]	18,751
	Slottsarkivet (SIA) [王室アーカイブズ]	678
	Krigsarkivet (KrA) [軍アーカイブズ]	583
	その他 (RA)	1,370

(参考比較)

フィンランド国立図書館デジタル公開

<http://www.kansalliskirjasto.fi/extra/bulletin/article1.html> [6.8.2012 15:24:45] (引用日: 2014-03-23)

9,319

(カウントはフィンランド国立図書館)

DFG (Deutsche Forschungsgemeinschaft) のガイドライン⁴⁷に従っている。このガイドラインは、ドイツ語圏で中世資料の整理業務などに採用され、また、すでにウップサラ大学図書館の断簡資料で実績がある。ガイドラインをふまえた各資料メタデータの骨格は<table 4>の5つで構成される⁴⁸。

1 から 5 の詳細が断簡 Fr2046 の例<table 5><table 6>のように検索結果記述に反映される。CCM の成果も情報として付加されている。またヘルシンキ所蔵関連分も参考として言及される。<table 5> Arkiv/samling のメタデータ Västergötlands handlingar [ヴェステルイエートランド行政文書簿冊] がもとの簿冊名である。簿冊シリーズの中で、ヴェステルイエートランド行政文書簿冊1616年の表紙であったのが Fr2046 となる⁴⁹。

2015年2月現在、国立公文書館の所蔵資料検索内でおおよそ23000の断簡画像が公開されている⁵⁰。断簡について網羅的な画像掲載刊行本はない。

47 Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG) <http://www.dfg.de/formulare/54_012/> (引用日:2015-01-23)、Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG), Proposal Preparation Instructions Project Proposals <http://www.dfg.de/formulare/54_01/54_01_en.pdf> (引用日:2015-01-23)

48 Brunius [2013] p.155.

49 フィンランド側はこのように検索をし確認することはできない。表紙の管理と行政文書の管理の担当機関が異なることも理由の一つである。

50 利用引用されている状況を論文などから考えると、試行版が作業の早い段階から提供されていたように思われる。スウェーデンとフィンランドの図書館及びアーカイブズには、多様な検索が設けられている。試行版として公開されていることも多い。例えば、19世紀の新聞掲載サイトなどは試行版と明示もされた不完全な段階から本稿執筆後も利用してきた。メタデータ作成後の、画像掲載前後の両方の時期に閲覧したという経験もある(前掲16に引用した新聞記事の後半部分は最近見られるようになった)。

table 4

< MPO データベースの基本 >

1	Fragments shelfmark and archival information	Fr1-Fr1804 などシリアルナンバー, 所蔵状況, 基本的な情報。
2	External description	形態など
3	Internal description	作成者やタイトルなど
4	Content	内容の説明など
5	Illustration	表示画像

table 5

MPO の検索結果例 (断簡 Fr2046 のデータ表示) (MPO についてはドイツ語も用意されている。ここでは省略した。) Riksarkivets databas över medeltida pergamentomslag < http://sok.riksarkivet.se/mpo > (引用日: 2015-01-23) スウェーデン語サイト 英語サイト (左記データと概ね対応)			
Fr 2046		Fr 2046	
Medeltida pergamentomslag		Medieval book fragments	
Codex	wie Fr 2045, 2099, 10955	Codex	wie Fr 2045, 2099, 10955
Arkivinstitution	KA (i ARKIS: RA)	Archival institution	KA (i ARKIS: RA)
NAD-beteckning	5121.06	NAD shelfmark	5121.06
Arkiv/samling	Västergötlands handlingar	Archival collection	Västergötlands handlingar
Användningsår/volym	1616:13	Year of use/Archival unit	1616:13
Huvudkategori	Lit	Main subject field	Lit
Datering	12. Jh. 2. Hälfte	Dating	12. Jh. 2. Hälfte
Benämning	Missale	Type of manuscript	Missale
Innehåll	1r-2v Proprium de tempore: Dom. in passione - Fer.II p. pass.; 2rv Fer.VI p. pass. - Sabb. p. pass.	Contents	1r-2v Proprium de tempore: Dom. in passione - Fer.II p. pass.; 2rv Fer.VI p. pass. - Sabb. p. pass.
Material	Pergament	Writing material	Pergament
Antal blad	2	Number of leaves	2
Antal spalter	2	Number of columns	2
Antal rader på huvudtext	29	Number of lines, main text	29
Format på hela bladet	33.0 x 22.0	Measures, leaf	33.0 x 22.0
Mått på skrivyta	24.5 x 16.5	Measures, written space	24.5 x 16.5
Skrift	Protogothica	Script	Protogothica
Rubricering	Rubr	Rubrication	Rubr
Notskrift	Neum/Quadr	Musical notation	Neum/Quadr
Antal notlinjer	4	Stave lines	4
Dekoration	Rote und grüne Lombarden mit Fleuronnée.	Decoration	Rote und grüne Lombarden mit Fleuronnée.
Skador	Beschädigt, 1r oben Text z.T. radiert, 2v teilweise unlesbar.	Damages	Beschädigt, 1r oben Text z.T. radiert, 2v teilweise unlesbar.
Lägganmärkingar	Am oberen Rand Folierung von späterer Hand 2r: D XX; 2v: ?	Quire remarks	Am oberen Rand Folierung von späterer Hand 2r: D XX; 2v: ?
Anmärkingar	Fr 2045 und Fr 2046 gehören zu derselben Lage und folgen aufeinander. Fr 2045 = Doppelbl. [1], Fr 2046 = Doppelbl. [2], Fr 2099 = Doppelbl. [3] und inneres Doppelbl. einer Lage.	Remarks	Fr 2045 und Fr 2046 gehören zu derselben Lage und folgen aufeinander. Fr 2045 = Doppelbl. [1], Fr 2046 = Doppelbl. [2], Fr 2099 = Doppelbl. [3] und inneres Doppelbl. einer Lage.
Bild		Image	

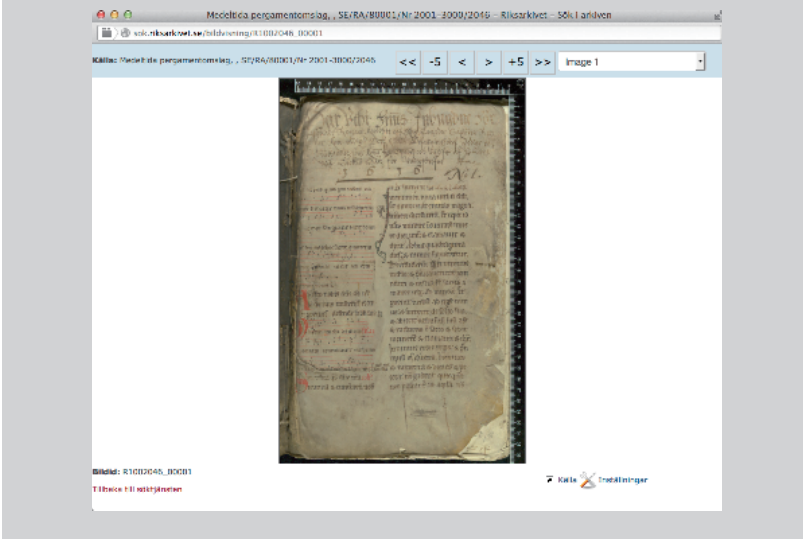
デジタル公開の画像表示は他の資料と同じく、DjVu である⁵¹。2015年以降、DjVu から新しいシンプルな表示方法に移行中である。Jpeg で素早く展開される。

51 保存用の形式は基本的には TIFF である。

MPO の検索結果 Fr 2046 添付の画像

Riksarkivets databas över medeltida pergamentomslag <<http://sok.riksarkivet.se/mpo>> (引用日: 2015-01-23)

Källa: Medeltida pergamentomslag, SE/RA/80001/Nr 2001-3000/2046



3. 4 統合検索 NAD と特殊資料検索 MPO

中世カトリック教会断簡資料は、スウェーデン国立公文書館及び複数の参加アーカイブズ機関による統合検索 NAD (Nationell Arkivdatabas) 内にある Specialsök [特殊資料検索] の MPO データベース (Databas över medeltida pergamentomslag) で検索をし資料画像を閲覧する。

NAD の Specialsök [特殊資料検索] サイトに、「ノブゴロド占領期資料⁵²⁾ (Ockupationsarkivet från Novgorod)、ルター派教会などから順次受領している教会文書、あるいは鬼籍データベースなどと並び MPO 中

52 12世紀以降、ロシアのノブゴロドを占領したときに収奪してきた資料群。断簡資料のような資料を扱う際に、このような孤立した資料群の過去における整理経験も一定は援用されているようである。なお、Fr7305 はノブゴロドで所蔵されていたと考えられる刊行物の一ページであった。Fr7305 はカトリック教会旧蔵資料とは由来が異なる。Fr7305 の記述言語は教会スラブ語 (Kyrkslaviska) である。Abukhanfusa [2004b] p.88.

世カトリック教会断簡資料のデータベース項目がある⁵³。クリックするとMPO 検索サイトとなる。MPO の画像はそのまま展開できるが、断簡表紙とかつて一体であった行政文書（税務文書）などの多くは閲覧の権利をあらかじめ購入しておくことになる。Bild [画像]をクリックした時に支払いを済ませたID とパスワードを入力する。ノブゴロド占領期資料や中世カトリック教会断簡コレクションのような公共性の高い資料は課金されることなく閲覧可能である。しかし一般市民の（寄贈）資料（多種多様なものを所蔵）は「購入」の必要があるということになる。個々の資料により異なるが、ネット公開許可の時期は、館内公開の時期よりも遅くなる。

NAD は、中世以来の紙目録と同じく⁵⁴、三階層（シリーズ・サブシリーズ・ファイルあるいはシリーズ・ファイル・アイテム）により分かりやすく資料群の構造が把握できるようになっている⁵⁵。特殊な資料群をゆるやかに関連づけて同検索内でデータを一元的に管理できるようにも設計されている。作成取得部署をシリーズとし、事件事案をファイルとした整理が行われる。注目される資料が様々な階層の中に所在する場合、特別な資料（群）としてデータを抽出、〈table 7〉のように Specialsök [特殊資料検索]に追加する。メインの電子目録とは別に、Specialsök サイトを設定することで、貴重図書やモノ資料、企業や個人の寄贈資料群などを自在に整理公開（データ上の抽出）できる仕組みである。

〈table 7〉のような複数の検索サイトを設けるのは、階層構造を離れ

53 スウェーデン国立公文書館などの統合検索 NAD の Specialsök <<http://sok.riksarkivet.se/specialsok>>（引用日:2015-01-23）

54 フィンランドの国立公文書館や国立図書館アーカイブズ部門所蔵の19世紀の手紙資料は、電子目録はなく、複数のノートで検索をする。階層ごとにノートを確認していく。フィンランドの紙目録の考え方は NAD のメインの電子目録の考え方に近似している。前出したグロンブロードらの手紙も、検索場所はフィンランドであるが、スウェーデン以来の方法に従い調査をしていることになる。

55 平井 [2013]。スウェーデン独自のものである。おそらく紙目録時代から現在の電子目録時代に至るまで、資料群は階層構造でシンプルに把握すること、実務が容易に進められることが優先されている。

table 7

スウェーデン国立公文書館 NAD 検索内で展開されている資料群・特殊資料 (Specialsök)

(参考訳付に際し、各資料群検索サイトの解説 (スウェーデン語) を利用した)
<http://sok.riksarkivet.se/specialsök> (引用日:2015-01-28)

Digitaliserade arkiv [デジタル公開されている資料群]	Databaser [データベース]
Arméns rullor [軍籍]	Aktiebolag 1901–1935 [小規模会社資料群]
Domstolsarkiv [裁判所資料群]	Arkiv (NAD)
Ericssbergsarkivets autografsamling [エリクスベルク城の自筆 (署名) コレクション]	Arkivinstitutioner (NAD)
Fastighetsböcker 1933–1980-talet [不動産登記 (除籍) 簿]	Axel Oxenstiernas skrifter och brev [宰相 Axel Oxenstierna の資料や書簡]
Flottans arkiv [海軍資料群]	Bouppteckningar [家屋の記録]
Församlingsutdrag 1860–1930 [教区流出資料]	Brandförsäkringar [火災保険資料群]
Generalmönsterrullor [兵籍簿]	Brandförsäkringar - kartor [火災保険関係地図資料群]
Jordeböcker ca 1630–1750 [土地建物登記 (除籍) 簿]	Brevsamlingar [手紙資料群]
Krigsarkivets kartsamlingar [軍測量地図資料群]	By- och gårdsnamn [村及び農場の名前]
Kyrkoarkiv [教会資料群]	Domboksregister, Gillberg och Näs [裁判所記録, ギルベルグ町及びネス町]
Lagfartsböcker 1875–1933 [登記簿謄本]	Dödsregister [鬼籍データベース]
Landskapshandlingar 1530–1630 [地方行政文書群]	Folkkräkningar (Sveriges befolkning) [国勢調査]
Landskontor och landskansli [地方行政資料群]	Frigivna straffarbetsfengar [出所者の記録]
Lokalundersökningar (jordbruk) [農地調査関係]	Födelseregister [生誕記録]
Mantals- och kronotaxeringslängder Stockholms stad [ストックホルム人口動態調査]	Garpenbergs bruk 1854–1874
Mantalslängder 1642–1820 [人口動態調査]	Konseljären 1840–1920 [閣僚会議録]
Ockupationsarkivet från Novgorod [ノボゴロド占領期資料群]	Krigsarkivets porträttsamlingar [軍アーカイブズ肖像写真コレクション]
Roterings- och utskrivningslängder [徴兵者名簿]	Kungliga Patriotiska Sällskapets medaljer [愛国協会の農工業功労者メダル]
SCB födda, vigda, döda 1860–1944 [行政機関 SCB による生誕・結婚・死亡の記録]	Medeltida pergamentomslag [中世羊皮紙資料群]
Summariska folkmängdsredogörelser [人口調査]	Medicinalstyrelsen 1876–1915 [医療政策会議]
Trolldomskommissionen [魔女裁判記録]	Orter, Sveriges indelning genom tiderna (NAD) [地形調査]
Älvsborgs lösen 1571 och 1613 [Älvsborg の賠償支払い記録]	Personregister över skrivelser till Kungl. Maj:t [王室への個人書簡記録]
	Rosenbergs geografiska lexikon [ロウゼンベルグの地理学事典]
	SDHK (Medeltidsbrev) [中世の憲章]
	Sjömanshus (Sjöfolk) [船会社の記録]
	Sockenstämma Jämtlands län [教区会議記録, イェムトラント地方]
	Torparförsvar Västernorrlands och Jämtlands län [小作争議, ヴェステルノールランド及びイェムトラント]
	Vigselregister [婚姻記録]

(このほか同じページに Externa länkar [外部リンク集] も並べられているがここでは省略)

(上記はすべて暫定的な参考訳である。確定するには各資料群の資料自体の閲覧も必要となる。)

た「横断検索」でもアクセス利用ができるようにするためでもある⁵⁶。本稿で扱われている断簡資料も、このような抽出資料群のひとつである。基

56 Specialsök サイトへのデータ上の抽出は (場合によっては新たに資料群名を付し)、別のカタログを作成していることになる。同じ資料 (群) について複数のカタログにより提供することで利用者の利便性は増す。アクセスの通路が増える。宰相アクセル・オクセンシエルナ (Axel Oxenstierna) 資料群のように、フランス外務省アーカイブズ (Archives des affaires étrangères) などからも抽出 (データ上) している資料を含む資料群データベースもある。

本的には行政文書（税務文書）の階層構造で示されるメインの電子目録がある。表紙自体も資料として重要であるから、通常の階層構造を離れ、別の検索が設定されていることになる。なお、断簡の表紙がどの行政文書に使われていたかという点については、棚番号（NAD-beteckning）でも確認できる⁵⁷。

3.5 フィンランドでのデジタル公開

フィンランドでは、グロンブロード以来、税務文書簿冊の内容部分は国立公文書館、断簡の表紙はヘルシンキ大学図書館・国立図書館が所蔵してきた。従ってデジタル公開は国立図書館により実施された。国立図書館にもアーカイブズを担当する部署がある。国立図書館による中世資料の補修は実務者の間で定評がある。断簡コレクションは、ヘイッキリア（Tuomas Heikkilä、ヘルシンキ大学、教会史）を中心としたプロジェクトで2006年から2012年に公開の準備が進められた。スウェーデン国立公文書館とは異なり、フィンランド国立図書館では、断簡コレクションは別サーバの専用サイトが設けられた。なお表紙に流用された断簡ではないが、フィンランド国内の中世（カトリック）教会関係刊行物には国立公文書館（分館）所蔵分もある⁵⁸。国立図書館のサイトには情報もなくリンクもないが、ハーパネンらの目録では言及されていることもある。

国立図書館のデジタル公開について整理すると、①メタデータ<table 8>

57 スウェーデン及びフィンランドでの整理の基本は棚である。資料には「棚番号」がつく。整理の都合で解体されても棚番号で復元できる。資料の量を長さで表記する場合も、棚メーター（hyllmeter）である。棚の幅を1メーターとする。それは本来、約80センチ弱である。10（棚）メーターは道路などで用いられるメーターに換算すれば8メーター弱となる。メタデータで量を確認する際は注意を要する。

58 例えば、Turun maakunta-arkisto 所蔵の Taivassalon manuale (1350-1500) <<http://www.narc.fi:8080/VakkaWWW/Selaus.action?kuvailuTaso=AM&avain=17733.KA>>,<https://www.finna.fi/Record/narc.VAKKA-318630.KA_VAKKA-2174431.KA>（引用日:2015-02-09）。

F.m.II.128 (Gradual) のメタデータ表示 (ダブリンコア関連は英語のみ)

<http://pergamentti-kk.lib.helsinki.fi/handle/10024/185?show=full> (引用日 :2015-02-02)

[DCMI Metadata Terms]	[Data]
dc.title	F.m.II.128 (Gradual)
dc.date.created	1401/1600
dc.date.begin	1401
dc.date.end	1600
dc.description.contents	Gradual
dc.description.genre	Liturgy
dc.description.timing	Saec. xv - xvi
dc.format.extent	3 fol.
dc.identifier.signum	F.m.II.128
dc.identifier.urn	URN:NBN:fi-fd2011-fra0497
dc.identifier	URN:NBN:fi-fd2011-fra0497
dc.identifier	F.m.II.128
dc.language	lat
dc.relation.isreferencedby	URN:NBN:fi-fd2011-fra0497-desc1
dc.rightsHolder	The National Library of Finland
dc.rights.license	Creative Commons Public Domain Mark 1.0
dc.type	Manuscript
dc.type	Text
dc.type.content	Manuscript
dc.identifier.uri	http://pergamentti-kk.lib.helsinki.fi/handle/10024/185
dc.date.accessioned	2012-02-17T13:42:30Z
dc.date.available	2012-02-17T13:42:30Z
dc.date.issued	2012-02-17
dc.description.additionalInformation	DATE: Probably saec. xv (Haapanen); saec. xv - xvi also suggested (MPO). OTHER NOTES: Also known as: MPO Fr 25086 (CCM Gr 11). From same codex: CCM Gr 11 (Stockholm, Riksarkivet; Fr 11686 S 392 1587; Fr 25085 KB A 103 c 1 Olof Larssons räkenskap för Narva slott 1586; Fr 25555 S 169; --; Kammrarkivet Fr 25088 Baltiska fogderäkenskap 166:2 F 415 Räkenskap 1586; Fr 25089 Baltiska fogderäkenskap 165:2 F 415 Räkenskap 1584; Fr 25090 Baltiska fogderäkenskap 186:1 F 422 Räkenskap 1586; Fr 30870 Baltiska fogderäkenskap 166:4 F 415 Räkenskap 1586; --; Krigsarkivet 1585:19 Björn Västgötes räkenskap 1585; 8 fr., 12 fol.).
dc.identifier.orderingSignum	F.m.020.128
dc.description.haapanen	15. (16.) Jh. Initialen rot. Quadratnotation. Fölerung in Rot am äusseren Rand der Rektoseiten. GRADUALE. Fol. 1 (alte Zählung: P 2) [Dom. XVI post Pentec] — [Dom. XVII]; fol. 2 (T 3) [Sanctus], Agnus Dei; De beata Maria Virgine: Kirie, Gloria; fol. 3 (T 6) [Sequenzen: Pascha: Victimae paschali]; [De s. Maria:] Virgini Marie laudes. W. 1593—1611.
dc.relation.isreferencedbykk	/viewer/catalog.html?item=fd2012-00000004&handle=10024/1624?page=88

はダブリンコアに準拠している⁵⁹。②主題別に並び、小画像をクリックし細部へ移動する簡単な構造である。③資料画像は TIFF を基本としつつ PDF もある。④サイト冒頭の説明及び各項目はフィンランド語による記述が基本。対応する、直訳に近い英語も用意されている。⑤参考として、ハーパネンとタイットー (Ilkka Taitto) の目録⁶⁰ が TIFF 及び PDF で

59 ページのソースを確認すると、ダブリンコアの次のページにリンクされている。DCMI Metadata Terms <<http://dublincore.org/documents/2012/06/14/dcmi-terms/?v=dcam%20dctype>> (引用日:2015-02-02)

60 掲載されているのは Haapanen [1925], Haapanen [1932], Taitto [2001a], Taitto [2001b]。ハーパネンの記述は具体的かつ詳細だが、タイットーは一行程度の説明と定規入りの画像で構成。

添付されている。項目に合わせ目録が切り分けし添付されていることもある。⑥ダブリンコア準拠部分以外のサイト内の説明記述言語はフィンランド語か翻訳の英語、目録記述はドイツ語（ハーパネン）か英語（タイトー）ということになる。

国立図書館メインサイト掲載のヘイッキリア（Heikkilä）の解説⁶¹によると、デジタル公開の断簡は9319片、鞆皮紙のページでは

18368。かつてこれらは約1500の大型本であった。大半はカトリック関係で、16%が法関係、14%が神学関係という。聖書の記述も3%程あり、また聖人伝も3%である。11世紀から16世紀のこれら刊行物は、大半はラテン語の記述で、英国、ドイツ及びフランスなどから輸入された。最後期には、国内で製作されたものもあり、また印刷機印刷物もある。解説の冒頭で、断簡に関心をよせたナショナリストが19世紀にいたことが言及されている。ルター派採用後に表紙として転用されたこと、スウェーデンからの移管、あるいはこれまでの資料整理のことも簡潔にまとめられている。数年間の作業を経て、2012年に公開された⁶²。〈table 9〉に主題別のシリーズを示しておく。

table 9

フィンランド中世断簡コレクションのシリーズ
Fragmenta membranea -kokoelma <<http://fragmenta.kansalliskirjasto.fi/>> (引用日：2014-03-23)

Selaa kokoelmaa

Fragmenta membranea [1619]

F.m.I (Missalia) [369]

F.m.IIa (Gradualia) [129]

F.m.IIb (Lectionaria) [7]

F.m.III (Breviaria) [190]

F.m.IV (Antiphonaria) [203]

F.m.IVb [9]

F.m.Va (Biblia Sacra) [53]

F.m.Vb (Theologiae Auctores) [129]

F.m.Vc (Varia) [27]

F.m.VIa [14]

F.m.VIb [30]

F.m.VII (Varia liturgica & hagiographica) [137]

DIG (Luetteloimaton aineisto) [318]

Catalog [4]

61 Heikkilä [2008].

62 Fragmenta membranea-kokoelma <<http://fragmenta.kansalliskirjasto.fi/>> (引用日:2014-03-23)。画像公開が優先されており、棚番号DIG.1.1.1<<http://fragmenta.kansalliskirjasto.fi/handle/10024/1023>> (引用日:2015-03-15)のようにメタデータ付与が現時点でされていない資料もある。利用者にはとりあえず画像のみ提供である。

4. 断簡の活用

これまで述べてきたように、スウェーデンではシュミットらがCCMプロジェクトで、断簡となる前の状態についての考察で成果を残している。フィンランドではハーパネンが中世教会音楽研究の立場から研究をした。今後はさらに、断簡が容易に閲覧可能になったことで研究の進展が期待される。ノルウェーでも同様の資料が活用されている⁶³。ここでは、フィンランドでの二つの研究の方向性を紹介する。

4.1 中世教会の所蔵目録や、購入、寄贈及び移管リストとの比較検討

グロンブロードやハーパネンの研究作業では、内容の考察も詳しく行われている。とはいえ基本的には、断片となってしまった刊行物をもとへ戻す、という視覚的なイメージで対象資料の考察が進められた。ハーパネンやシュミット、タイトーにより、一定程度はもとの姿が明らかにされると、次には中世における所蔵の状態や由来の考えられる必要がある。

ケスキアホ⁶⁴は、フィンランドでの教会の所蔵冊数や種類などを、残されている資料群などから逆に推測し考察を進めている。あるいは、その推測と、部分的に残されている中世教会の所蔵目録や、購入、寄贈、移管リストとの比較検討もしている。さらには、カトリック教会が消えてしまう前の現用段階ですでに解体されているものがあることも明らかにしている。つまり、大型本は持ち運びに不便であり、典拠関係は必要な部分のみを剥がし、別の教会に貸し出すことも行われていたようである。物理的な表紙のまとまり状況が今後の研究で明らかになれば、ケスキアホのような研究成果は積極的に評価検討されうる。

4.2 中世フィンランドのリテラシー研究

63 Ommundsen [2008].

64 Keskiäho [2008a]. Keskiäho [2008b].

オーボは、カトリック教会司教の所在地であるのに加え、中世から長く、フィンランドのリテラシーの中心地であった。1640年にはスウェーデン支配地域の主要4大学の一つ、オーボアカデミが、そのようなリテラシーを基盤に設立された。しかしながら、中世の学術文化の状況は不明な点が多い。断簡資料はこの不明な点を明らかにするものとして、補うものとして考えられている。

ヘイッキリア⁶⁵は、断簡の中で、オーボにて書写されたカトリック刊行物に着目している。中世カトリック資料は、カトリック修道僧の留学先（あるいは出身地）である欧州各地などから持ち帰ったものが中世前半の年代には多く含まれている。後半に、スウェーデン・フィンランド内での作成が増えている。輸入物かどうか確認することが最初に必要となる。その上で、国内のどこの地域のどの修道院書写室で作成されたのかを明らかにしなければならない。断簡ファイル携行説にあるように断簡と税務文書との実際の関係は複雑である。オーボ作成のカトリック資料もオーボに限定されず各地の税務文書簿冊の表紙に使用されうる。ヘイッキリアは、利用が容易になったスウェーデン所蔵表紙を考察する基礎作業を進め、フィンランド所蔵分もあわせ、オーボでの書写の特徴や方法など詳しく報告している。

おわりに

本稿は、中世カトリック教会断簡コレクションに関わる過去における重要な実務作業などを取りあげた。最初に「1. 中世カトリック教会断簡コレクション」では、断簡コレクションは、本来は9世紀頃のキリスト教伝来以後、スウェーデン及びフィンランドの各教会に配置された刊行物が頁単位で解体されたものであった。カトリック弾圧の16世紀、17世紀に解体され、行政文書（税務文書）の表紙に最終的には流用、フィンランド大

65 Heikkilä [2008].

公国成立後の19世紀にはストックホルムとヘルシンキとで分かれ所蔵されてきたことを説明した。

次に「2. ヘルシンキ大学図書館アーキビスト・グロンブロードによる価値の確認と保存作業」では、19世紀フィンランドの大学図書館アーキビスト・グロンブロードらの作業に触れた。このコレクション及びスウェーデンでの同様のコレクションが保存され、結果的に今日、デジタル公開された背景には19世紀の作業がある。

「3. スウェーデンとフィンランドでのデジタル公開」においては、スウェーデン国立公文書館ではDFGメタデータを採用しデジタル公開提供をしていること、フィンランド国立図書館では、断簡を独立したコレクションとして提供していることを概説した。同様のコレクションではあるが、スウェーデンでは、行政文書の目録データが基本である。その表紙についても詳しく記述されているということになる。対して、フィンランドでは、独立したデータベースにおいて、Missal など主題別に公開されている。それぞれのデータの作成方法、あるいは提供の方法を理解し資料は閲覧される必要がある。

スウェーデン国立公文書館の場合、行政文書の表紙として公開される。つまり主題が不明でも行政文書に関連し公開していくことができる。Missale など中世の本としての復原状況あるいは復原の推測は、メタデータのCodex項目に情報を追加していくことで示すことも可能である（関連する断簡が全く不明の場合はCodex項目は表示されない）。復原は、CCMプロジェクトが「けっして終わらない」ことから明らかなように困難である⁶⁶。フィンランド国立図書館では、実際にはおおまかな主題別に画像が掲載されている状況にとどまることになる。由来や資料の状況も含め、断簡研究の進展に合わせてデータを付加していくのはスウェーデン国立公文書館の方が容易である。

66 Brunius [2013] p.29.

最後に、「4. 断簡の活用」として、資料が整理され積極的に公開されたことから、中世フィンランドにおける教会でのカトリック資料の状況や、中世フィンランドのリテラシー研究の進められていることを紹介した。画像公開され扱うことが容易になったことで、当面はこのような資料に関わる基礎的な研究が進むことになる。スウェーデン国立公文書館の目録データは、研究の進展でメタデータなどに修正が加えられるかもしれない。フィンランド国立図書館のメタデータはそもそも棚番号（Shelfmark）と画像のみでその他の記載が全くないものもある⁶⁷。スウェーデン国立公文書館のデータベースも、フィンランド国立図書館のデータベースも、研究成果から学び目録データに修正が加えられていくと考えられる。

中世カトリック教会断簡コレクションは今日、中世フィンランド研究に積極的に活用される価値を有することは明らかである。単純に表紙が取り替えられ処分されていたら私たちは断簡を目にすることは困難であった。グロンブロードの「可逆性にも配慮した仕事」は、現在のアーカイブズ学・図書館情報学の観点からは不十分であったかもしれない。とはいえ、表紙を剥がすという解体による価値の減少をグロンブロードは当時としては相対的に最小化した。グロンブロードら19世紀のアーキビストは、フィンランドに光をあてる、そのことに用いられうる資料の整理と活用に努力した、と言われてきた。アーカイブズ実務の確立に努力しつつ、その努力の結果のひとつを、中世カトリック教会断簡コレクションの保存（の合意と活用）という形で示したことになる。

67 DIG.1.1.1 <<http://fragmenta.kansalliskirjasto.fi/handle/10024/1023>>
(引用日:2016-10-07)

文 献 literature

アーカイブズ資料 Primary source

Karl August Bomansson, Brev till Reinhold Theodor Hausen, [1868-1900], 602.199, Kansallisarkisto.

Edvard Grönblad, Brev till Frans Petter von Knorring, 6. 9. 1841, s3, SLSA 704, Svenska litteratursällskapet i Finland.

Edvard Grönblad, Brev till F. W. Pipping, 29 och 30. 9. 1841, PIPPINGSKA BREFSAMLINGEN, 343.A.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till F. W. Pipping, 17. 8. 1842, PIPPINGSKA BREFSAMLINGEN, 343.A.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till F. W. Pipping, 19. 9. 1846, PIPPINGSKA BREFSAMLINGEN, 343.A.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 1. 12. 1853, COLL 185.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 18. 12. 1857, COLL 185.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 18. 12. 1857, COLL 185.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 18. 12. 1857, COLL 185.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 23. 5. 1857, COLL 185.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 23. 5. 1857, COLL 185.1, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 23. 5. 1857, COLL 185.1,

Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 23. 5. 1857, COLL 185.1,

Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till G.Rein, 20. 6. 1857, COLL 185.1,

Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

Edvard Grönblad, Brev till Johan Ludvig Runeberg, 29. 5. 1850, s43,

SLSA 1104, Svenska litteratursällskapet i Finland.

Edvard Grönblad, Brev till Johan Ludvig Runeberg, 16. 11. 1857,

s43, SLSA 1104, Svenska litteratursällskapet i Finland.

Edvard Grönblad, Brev till G.O. Wasenius, 1. 1. 1841, s13, SLSA 408,

Svenska litteratursällskapet i Finland.

Tovio Haapasen muistsiinpanoja, COLL 792, Käsikirjoitustilaus,

Kansalliskirjasto.

Upplysningar om Missale Aboence och andra liturgiska skrifter

(Edvard Grönblad), DII45, Käsikirjoitustilaus, Kansalliskirjasto.

印刷刊行資料 Secondary source

Abukhanfusa [2004a]. Abukhanfusa, Kerstin, *En liten bok om Boken*, Stockholm, Riksarkivet/Stockholms medeltidsmuseum, 2004.

Abukhanfusa [2004b]. Abukhanfusa, Kerstin, *Mutilated Books: Wonderous Leaved from Sweden*, Stockholm, Riksarkivet, 2004.

Backhaus [2009]. Backhaus, Helmut, (Utgivna av,) *Rikskanslern Axel Oxenstiernas skrifter och brevväxling. Avd. 1, band 16, utges i två delar sålda tillsammans Brev 1636-1654*, Stockholm, Riksarkivet, 2009.

Brunius(ed.) [2005]. Brunius(ed.), Jan, *Medieval Book Fragments in Sweden: An International Seminar in Stockholm, November 2003*,

- Kungl. Vitterhets Historie Och Antikvitets Akademien, 2005.
- Brunius [2013]. Brunius, Jan, *From manuscripts to wrappers : medieval book fragments in the Swedish National Archives : archival guide*, Stockholm, Riksarkivet, 2013.
- Grönblad [1839]. Grönblad, Edvard, *Bidrag till Österbottens historia*, 1839.
- Grönblad [1847]. Grönblad, Edvard, Tvenne Medeltidshandlingar, *SUOMI Tidskrift i fosterländska ämnen. 1846, 1847*, 202-260.
- Heikkilä [2008]. Heikkilä, Tuomas, I ett medeltida scriptorium i Åbo, *Historisk Tidskrift för Finland*, 93, 2008, 253-284.
- Heikkilä [2009]. Heikkilä, Tuomas, *Piirtoja ja kirjaimia Kirjoittamisen kulttuurihistoriaa keskiajalla*, Helsinki, Suomalaisen Kirjallisuuden Seura , 2009.
- Heikkilä (toim) [2010]. Heikkilä, Tuomas, (toim,) *Kirjallinen kulttuuri keskiajan Suomessa*, Helsinki, Suomalaisen Kirjallisuuden Seura , 2010.
- Helander [1984]. Helander, Sven, Två medeltida kalendariefragment, *Suomen kirkkohistoriallisen seuran vuosikirja*, 74, 1984, 33-49.
- Haapanen [1922]. Haapanen, Toivo, *Verzeichnis der mittelalterlichen Handschriftenfragmente in der Universitätsbibliothek zu Helsingfors. I. Missalia. Helsingin yliopiston kirjaston julkaisuja; 4*, Helsinki, 1922.
- Haapanen [1925]. Haapanen, Toivo, *Verzeichnis der mittelalterlichen Handschriftenfragmente in der Universitätsbibliothek zu Helsingfors. II. Gradualia; Lectionaria missae. Helsingin yliopiston kirjaston julkaisuja; 7*, Helsinki, 1925.
- Haapanen [1932]. Haapanen, Toivo, *Verzeichnis der mittelalterlichen Handschriftenfragmente in der Universitätsbibliothek zu*

Helsingfors. III. Breviaria. Helsingin yliopiston kirjaston julkaisuja; 16, Helsinki, 1932.

- 平井 [2013]. 平井,孝典,フィンランドにおける「中央政府アーカイブズ」の始まり, レコード・マネジメント, 記録管理学会, 65, 2013, 30-47.
- 平井 [2014]. 平井,孝典, 19世紀フィンランドにおける情報アクセスのための実務 —アルヴィドソンら「アーキビスト」による成果について—, レコード・マネジメント, 記録管理学会, 67, 2014, 50-70.
- 平井 [2017]. 平井,孝典, 19世紀後半フィンランドの国家公文書館——組織としてのアーカイブズ業務の確立——, レコード・マネジメント, 記録管理学会, 72, 2017 (印刷中)
- Kerkkonen [1988]. Kerkkonen, Martti, *Suomen arkistolaitos Haminan rauhasta maan itsenäistymiseen*, Helsinki, Vartionarkisto, 1988.
- Kerkkonen [1995]. Kerkkonen, Martti, *Finlands Riksarkiv 1809-1917 Det finska arkivväsendets historia från Fredrikshamnshfreden till självständigheten*, Stockholm, Svenska Riksarkivet, 1995.
- Keskiaho [2008a]. Keskiaho, Jesse, Bortom fragmenten. Handskriftsproduktion och boklig kultur i det medeltida Åbo stift, *Historisk Tidskrift för Finland*, 93, 2008, 209-252.
- Keskiaho [2008b]. Keskiaho, Jesse, En grupp handskrifter från slutet av 1400-talet-från Nådendals scriptorium?, *Historisk Tidskrift för Finland*, 93, 2008, 318-350.
- Knuutila [1984]. Knuutila, Jyrki, Ritualet i Åbo stift. Den medeltida finländska manualetraditionen i ljuset av ritualefragmenten i Helsingfors universitetsbibliotek, *Suomen kirkkohistoriallisen seuran vuosikirja*, 74 1984, 69-115.
- Lehtinen [1995]. Lehtinen, Anja Inkeri, Keskiajan filosofian käsikirjoituksia, *Bibliophilos*, 54:1, 1995, 4-13.
- Lehtinen [2005]. Lehtinen, Anja Inkeri, From Fragments into Codices. On Reconstitution of Theological and Philosophical

Works, *In Medieval Book Fragments in Sweden: An International Seminar in Stockholm November 2003*, (ed. Brunius, Jan) Stockholm, Kungl. Vitterhets Historie Och Antikvitets Akademien, 2005.

Ommundsen [2008]. Ommundsen, Eslaug, From Books to Bindings- And Back. Medieval Manuscript Fragments in Norway, *Gazette du livre médiéval*, vol. 52/53, 2008, 34-44.

Schmid [1945]. Schmid, Toni, *Liber Ecclesiae Vallentunensis*, Stockholm, Kungl. Vitterhets, historie och antikvitets akademien : Wahlström & Widstrand, i distribution, 1945.

Schmid [1959-1965]. Schmid, Toni, *Graduale Arosiense impressum*, Malmö, Lund, 1959-1965.

Tahkokallio [2008]. Tahkokallio, Jaakko, Handskrifter från ett scriptorium i Åbo från mitten av 1400-talet?, *Historisk Tidskrift för Finland*, 93, 2008, 285-317.

Taitto [2001a]. Taitto, Ilkka, *Catalogue of medieval manuscript fragments in the Helsinki University Library: fragmenta membranea. IV. Antiphonaria 1: Text*, Helsingin yliopiston kirjaston julkaisuja; 67, Helsinki, 2001.

Taitto [2001b]. Taitto, Ilkka, *Catalogue of medieval manuscript fragments in the Helsinki University Library: fragmenta membranea. IV. Antiphonaria 2: Plates*, Helsingin yliopiston kirjaston julkaisuja; 68, Helsinki, 2001.

Taitto [2002]. Taitto, Ilkka, *Graduale Aboense : 1397-1406 : näköispainos käsikirjoituskatkelmasta*, Helsinki, Suomalaisen Kirjallisuuden Seura, 2002.

Finlands Allmänna Tidning, no 104, 06.05.1844

Aineiston haku ja tilaaminen

<https://astia.narc.fi/astiaUi/search.php>

DCMI Metadata Terms

<http://dublincore.org/documents/2012/06/14/dcmi-terms/?v=dcam#%20dctype>

Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG)

http://www.dfg.de/formulare/54_012/

Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG), Proposal Preparation
Instructions Project Proposals

http://www.dfg.de/formulare/54_01/54_01_en.pdf

Fragmenta membranea -kokoelma

<http://fragmenta.kansalliskirjasto.fi/>

Research on parchment fragments, Dr Tuomas Heikkilä

https://www.kansalliskirjasto.fi/extra/vanhat_bulletinit/bulletin12/pdf/article1.pdf

Riksarkivets databas över medeltida pergamentomslag

<http://sok.riksarkivet.se/mpo>

Specialsök, NAD

<http://sok.riksarkivet.se/specialsok>

VAKKA-arkistotietokanta

<http://www.narc.fi:8080/VakkaWWW/EtuSivu.action>

付記：

本稿は、「フィンランド中世教会断簡コレクションのデジタル公開－19世紀のアーキビスト・グロンブロードが遺したもの－」（日本図書館研究会 第56回 研究大会（於 大手前大学）2015年2月21日）と題し報告した内容の一部に、その後の研究成果を加え作成しました。